

「 II. 症例報告」

COVID-19 ワクチン (BNT162b2) 成分変更後の接種で認められた薬剤性肺障

害の 1 例

眞水飛翔<sup>a</sup> 眞水麻以子<sup>a</sup> 石川大輔<sup>a</sup> 河上英則<sup>a</sup> 古川俊貴<sup>a</sup> 石

田卓士<sup>a</sup>

<sup>a</sup> 新潟県立中央病院内科

## 要旨

症例は66歳女性．成分変更後の COVID-19 ワクチン (BNT162b2) 接種後より発熱，咳嗽が持続するため受診した．胸部CTで両肺下葉と右肺上葉に consolidation を認めた．気管支肺胞洗浄液の細胞分画でリンパ球増多を認めた．ステロイド投与によって症状や画像所見の改善を得たが，ステロイド減量中に再燃した．臨床経過も踏まえ，COVID-19 ワクチンによる薬剤性肺障害と診断した．複数回の COVID-19 ワクチン接種後でも成分変更などによる薬剤性肺障害を発症することがあるため注意が必要である．

キーワード： mRNA ワクチン mRNA vaccine, 新型コロナウイルス感染症

Coronavirus disease 2019(COVID-19), 薬剤性肺障害 Drug-induced lung

injury, トジナメラン Tozinameran, ファムトジナメラン

Famtozinameran

短縮タイトル： COVID-19 ワクチン成分変更後に認められた薬剤性肺障害